

原爆の子 広島の少年少女のうったえ

期間 平成26年 1月1日(水)～12月28日(日)

時間 12月～2月 8:30～17:00 / 3月～11月 8:30～18:00 8月～19:00(5日、6日～20:00)

会場 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 情報展示コーナー(地下1階) **入場無料**

昭和二十年八月六日

一発の原子爆弾により

広島は街は一瞬にして破壊され

多くの尊い生命が

無差別に奪われました

被爆から六年

広島は街が復興へと歩む中

子どもたちが書いた被爆体験記集

「原爆の子 広島少年少女のうったえ」が
出版されました

帰らない父母を待ちながら

「お父ちゃん、お母ちゃん」と泣いた日々

二度と会えなくなったやさしい兄や姉

かわいい弟や妹たちの思い出

今回の企画展では

今も読み続けられている被爆体験記集を紹介し

子どもたちが体験した戦争や原爆の悲惨さ

平和への思いを伝えます

被爆者の「いころ」と「ことば」に

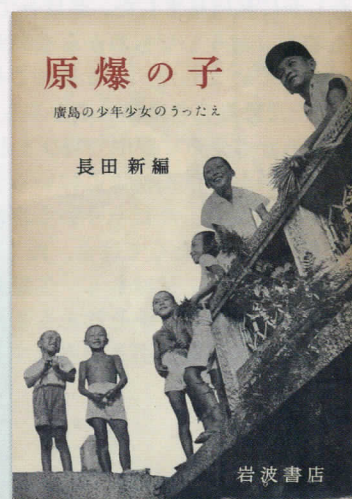
ふれてください



長田新氏 教育学者『原爆の子』編者
広島文理科大学教授在任中に被爆
昭和24年(1949年)から広島大学教
授 昭和36年(1961年)没



昭和27年(1952年)2月、長田新氏から、子どもたち
(執筆者)に1冊ずつ、『原爆の子』が手渡された。広島
大学文学部22号教室にて



『原爆の子』初版本 昭和26年(1951年)
岩波書店

田中清子さんの被爆体験記より

(被爆時：小学校3年生 執筆時：中学校3年生)

お母さんのすわっている前に、私と同じ年くらいの女の子がいました。その女の子は、体中にやけどや、けがをしていて、血がながれていました。苦しそうに母親の名ばかり呼んでいましたが、とつぜん私の母に、「おばさんの子供、ここにいるの？」とたずねました。その子供は、もう目が見えなくなっていたのです。お母さんは、「おりますよ」と返事をしました。すると、その子供は「おばさん、これおばさんの子供にあげて」と言って、何かを出しました。それはおべんとうでした。それは、その子供が朝学校に出かける時、その子供のお母さんがこしらえてあげたおべんとうでした。お母さんが、その子供に「あなた、自分で食べないの？」と聞くと、「私、もうだめ。それをおばさんの子供に食べさせて」と言ってくれました。しばらく川を下って船が海に出た時、その子供は「おばさん、私の名前をいうから、もし私のお母さんにあったら、ここにおるといってね」と言ったかと思うと、もう息をひきとって死んでしまいました。私はお母さんと一しょに泣きました。

出典「原爆の子 広島県の少女少女のうたえ」長田新編 岩波書店



似島に向かう船の中
映画「ひろしま」より 提供：熊井啓記念館

山村百合子さんの被爆体験記より

(被爆時：小学校3年生 執筆時：中学校3年生)

その時、庭先のへいの向う側でピカッともものすごく、そしてとてもすどく光ったのを、たしかに私は見ました。私はとてもびっくりして、その時、走ったものか、ふっとんだものか、どうしてもわからないが、となりの玄関のはしにおいてある帯ダンスの下敷になっていました。もうそれこそ真暗です。私は痛いとも苦しいとも感じませんでした。ただ恐ろしさに体はぶるぶるふるえていました。声の出るかぎり、「助けて！」と、もう何もかも分らず夢中で叫びました。爆音、人の叫び声、家の大破する音……。暗やみの中で「お母さんはここにいますよ」という声が聞えます。それもどこにどうしているのか分らない。ただそういう声がするだけです。しばらくして、私もだいぶおちついて来た時に、「たくてけえ、たくてけえ」と当時、数え年三歳の弟の舌のまわらない声が聞えました。父はもう一生懸命、板をばりばりはいで、ゆか下をさがしていたが、座敷の簿記台の下かそれとも茶の間の手入れの下かわかりませんが、とにかくそうした物の下から弟が引き出されました。その時の顔は、血で真赤にそまっていた。

出典：「原爆の子 広島県の少女少女のうたえ」長田新編 岩波書店



深田利幸氏 作 / 広島平和記念資料館所蔵

開館時間

12月～2月 8:30～17:00

3月～11月 8:30～18:00(8月～19:00 5日・6日～20:00)

休館日

年末年始(平成26年は1月1日から開館します)

入館料

無料

交通案内

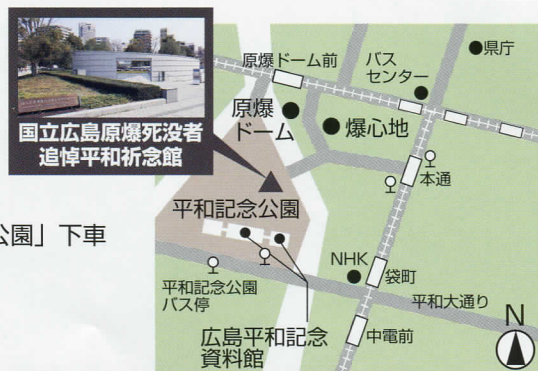
JR広島駅(南口)から約20分

・バス／広島バス吉島方面行で「本通り」または「平和記念公園」下車

・市内電車／紙屋町経由広島港(宇品)行で「本通」下車

宮島口・西広島・江波行で「原爆ドーム前」下車

駐車場はありません



お問い合わせ先

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

〒730-0811 広島市中区中島町1番6号 TEL 082-543-6271 FAX 082-543-6273
ホームページ <http://www.hiro-tsuitokinenkan.go.jp/>

当館では、被爆体験記と原爆死没者のお名前・遺影を収集し、公開しています。企画展では、被爆体験記を中心に、当時の写真、関連する資料などを展示し、特定のテーマから被爆の実相に迫ります。被爆体験記や原爆死没者のお名前・遺影をお寄せください。皆さまのご協力をお願いいたします。